

現場のプロに聞く (サーフィン・ボディボード)

熊谷 素子 プロ

専門学校在学中、ウィンドサーフィンと出会い、海の素晴らしさに魅了され、卒業と同時にサーフィンを始める。百貨店に勤務しながらサーフィンのコンテストに出場。その後、結婚・出産を経て、子育てが少し落ち着いた頃、もう一度コンテストに出場したく、猛練習の日々を送る。3年後の1999年に日本プロサーフィン連盟 (JPSSA) 公認プロ資格を取得し、日本の試合 (JPSSA) の他、海外の試合 (ASP) にも積極的に参戦。



その後、若手の育成を考えて、日本プロサーフィン連盟 (JPSSA) 公認インストラクターの免許を取得。現在、六丁の目にリニューアルオープンした JAPSS SURF SHOP を経営しながら、日々サーフィンスクールを開催しています。

佐藤 亜矢子 プロ

短大を卒業後、自動車メーカーに勤務し、周りの影響もあって友人達と一緒にボディボードを始める。波と一体感になれるボディボードの魅力に魅かれ、本格的にコンテストに出場するようになり、日々、練習の毎日。



全日本選手権入賞・NSA グランドチャンピオンゲームズ優勝など好成績を残し、2010年には、日本代表選手として世界サーフィン連盟主催 ISA WORLD BODYBOARD CHAMPION ウィメンズオープンクラスへ出場、第9位となる。

2012年、日本ボディボーディング連盟 (JPBA) 主催プロトライアルに合格し、公認プロ資格を取得。

現在 JPBA プロツアーをフル参戦し、シード権を狙い日々、練習を重ねている。

今でも忘れられないあの未曾有の東日本大震災から間もなく3年になろうとし、復興も少し遅れている感はありますが、明るい兆しも見えてきております。特に、スポーツにおいては、2020年の東京オリンピック開催が昨年のJOC総会で決定されました。また、ILC (国際リニアコライダー) では、まだ最終決定までさまざまな問題がありますが、とりあえず、日本の候補地に岩手県と宮城県の一部を含む北上山地が決定いたしました。

こういった事は東北地方や我々業界も大いに歓迎すべきことであり、少し元気がなくなっている業界全体にカンフル剤の役割も果たしてくれるのではないかと期待している次第です。

それで、今回のテーマのキーワードをスポーツと元気に焦点を当て企画しました。

特に、サーフィンは海岸でのスポーツであり、東日本大震災の大津波から今日に至るまで、どのように復興し現在はどうなっているのか、またサーフィンにおける将来展望などをプロサーファーの熊谷素子さんとプロボディボーダーの佐藤亜矢子さんにお話を伺いました。(なお、回答についてはその場で答えられない質問事項も有り、後日、書面にて頂戴しました)。

まずは、スポーツとしてサーフィンはあまり馴染みのない方が多いと思われるので、そのあたりから説明をお願いします。

●日本におけるサーファー・ボディボーダー人口またはプロサーファー・プロボディボーダーの数

* Surf 震災前で日本のサーファー人口は200万人位

- ・プロサーファーの数 ショートボード 男子178名 女子65名 計243名
ロングボード 男子143名 女子34名 計177名
2013年現在で合計420名

* Body boards 震災前で日本のボディボード人口は80万人位(女性の比率が高い8:2)

- ・プロボディボーダーの数 男子45名 女子58名 計103名

●世界全体のサーファー人口(その中でもサーフィン・ボディボードが盛んな国)について

* Surf 1000万人位 オーストラリア・ハワイ・カリフォルニア

* Body boards 600万人位 ブラジル・ベネズエラ・オーストラリア

●サーフィン・ボディボードの運営形態(組織など)

* Surf ・世界プロサーフィン連盟(ASP) URL <http://www.aspworldtour.com/>

男女カテゴリー WCT/WQS/PRO JUNIOR/Long board/

・日本プロサーフィン連盟(JPSA) URL <http://www.jpssa.com/>

男女カテゴリー Short boards/Long boards

・世界サーフィン連盟(ISA) URL <http://www.isasurf.org/>

男女カテゴリー Surfing/Junior Surfing/Master Surfing

Long board/Body board/Knee boards/Sup &Paddleboard

・日本サーフィン連盟(NSA) URL <https://www.nsa-surf.org/>

男子カテゴリー キッズ・ボーイズ・ジュニア・メン・シニアマスター・グランド
マスター・カフナロングボードメン・ロングボードマスター・ボディボードメン
計11クラス

女子カテゴリー ガールズ・ウィメン・シニアウィメンロングボードウィメン・
ボディボードウィメン 計5クラス

・日本学生サーフィン連盟(NSSA) URL <http://nssa-surf.org/>

男女カテゴリー メン・フレッシュメン・ロングボードメン

ロングボードウィメン・ボディボードメン・ボディボードウィメン

* Body boards

・IBA 国際ボディボード連盟(ISA) URL <http://ibaworldtour.com/>

カテゴリー Men' s/Women' s/Drop Knee

・日本プロフェッショナルボディボーディング連盟(JPBA)

URL <http://www.jpba.org/>

カテゴリー Men' s/Women' s/Drop Knee

・日本サーフィン連盟(NSA) 上記記載

・世界サーフィン連盟(ISA) 上記記載

●年齢構成(アマチュアサーファーの年齢構成)

・日本サーフィン連盟(NSA) 上記カテゴリー参照

・世界サーフィン連盟(ISA)

WORLD JUNIOR → U-18/U-16/U-18Girls/U-16Girls

WORLD SURFING → メンズオープン / ウィメンズオープン

WORLD MASTERS → マスター / グランドマスター / カフナ /
 グランドカフナ / ウィメンズオープン
 WORLD LONGBOARD → オープンメン / オープンウイメン
 WORLD BODYBOARD → メンズオープン / メンズ U-18 / ドロップニー
 ウィメンズオープン / ウィメンズ U-18

●プロになるための試験方法

* Surf

プロトリアルの子選ラウンドを勝ち上がった上位者がプロ本戦に出場できさらにプロ本戦の規定ラウンドまで勝ち上がった選手が合格となります。

2014年度より、年間総合ポイントランキング上位男子5人・女子3人が合格となり、またベスト2ウエイブの得点が12ポイント以上スコアした選手も合格となります。

* Body boards

プロトリアルにて、定められた規定の得点を出した選手が合格となります。

プロ本戦の賞金獲得ラウンドまで進出した選手が合格となります。

●競技方法

* Surf

サーフボードの上に立ち、波のクリティカルなセクションでスピード、パワー、そして流れを伴った、ラディカルでコントロールされたマニューバーを演じ、定められた規定時間内にライディングしたもっとも良い点数2本の合計で順位が決まり、2名がヒートアップしていきます。

Surfingの技として、クリティカルセクションにおいて、ブレイクしそうなリップでターンをし、再び波のフェイスに戻るトップターン(リエントリー)、ボードを今乗ってきた方向と逆に向ける(カットバック)、波がブレイクして出来た空間の中に消えていく(チューブライド)などがあります。

* Body boards

腹ばいで波に乗り、豪快な技を演技する数名のジャッジが技の完成度・難易度を同時に採点しラウンドアップしてトーナメントを戦っていく。Body Boardの技としては波の上で左右回転(スピン)、波の力を利用した縦回転(エルロロ)、波から飛び出す(エアリアル)などがあります。

●青少年育成について特筆すべき事項

サーフィン・ボディーボードは、海と自然を近くで感じる事ができるマリンスポーツの一つです。

自然相手のスポーツなので時には厳しいコンディションの時もありますが、海から学ぶ事はとても大切で感動も多く、自然エネルギーをいっぱい吸収する事ができます。自然と共に健全な心身の育成をはかる事ができる、とても素晴らしいスポーツです。

●大津波の映像を見た時の感想

熊谷→ いつも楽しく波に乗っている、その大好きな“波”が建物や人々を飲み込んでいく映像を見た時は、全身に鳥肌が立ち、今までにない恐怖と絶望を感じました。

佐藤→ とてもショックを受けました。自然の恐ろしさをすごく感じました。

●大津波からの復興

熊谷→ 私個人としては、お店のある若林区のボランティアセンターに登録し、被災された家の清掃活動を行いました。

また所属している組合(仙台サーフショップユニオン)では、全国の人々へ東日本大震災津波支援金を呼び掛け、集まった支援金を被災された各市町村へ支援しました。そして行政・住民・サーファーが三位一体となって、サーフポイントの開放に向けて海岸清掃活動を行い、震災前のそれ以上の海岸へ戻せるよう現在も復興に向け活動しています。そして、私が所属している日本プロサーフィン連盟(JPSA)では、2011年度に開催した各大会において、復興Tシャツの販売、またフリーマーケットやバザー等で収益した義援金を日本サーフィン連絡協議会、及び日本赤十字社を通じ被災地送る活動を行いました。

佐藤→ 日本プロボディーボーディング連盟(JPBA)では、大会開催日の中で、必ずビーチクリーンやTシャツの販売を行い、その収益金を震災復興へ寄付するなどのイベントが行われています。

●サーファー人口・ボディーボーダー人口(東日本大震災前と後)

大変申し訳ありませんが、震災後のデータを見つける事ができませんでした。

●現在のサーフポイント及び海岸の様子

私達がいつも練習している仙台新港ポイントは、震災から1年後に、一部駐車場が開放され、波乗りが出来るようになりました。

そして2013年4月26日に高台にある第一駐車場も開放されて、向洋海浜公園として多くのサーファーやボディーボーダー、一般の方達に親しまれています。

2013年度は、日本サーフィン連盟(NSA)公認大会が2戦行われ、2014年度は、10月25・26日の二日間、日本サーフィン連盟(NSA)主催のビッグコンテスト、オールジャパングランドチャンピオンゲームズ2014が開催される予定です。

●将来展望

*オリンピックとの関わり

野球やサッカーなどと違い、授業や部活動に取り入れられていないサーフィン・ボディーボードは、底辺である競技人口が少なく、オリンピック種目となっている競技人口に比べて、全体的に大きく差があるのが現状です。

(オーストラリア・ハワイなどサーフィンが盛んな国では部活動に組み込まれています)

*世界大会(ワールドカップなど)

世界サーフィン連盟(ISA)では、種目の他に年齢別のカテゴリーに分かれていて、特にISA WORLD MASTER SURFING CHAMPION SHIPでは、かつてWCT選手だった方も多く一線から退いても、自分のスキルを上げてコンテストに出場しています。

(日本サーフィン連盟(NSA)主催・公認大会の成績がポイントで加算され、カテゴリー別にクラス分けをしている、各クラスのランキングトップがISAの試合に出場する権利が与えられます)

*自分の将来像

熊谷→ 地元の復興と共に、沢山の方にサーフィンの素晴らしさを魅了してもらえようイベントやスクールを重視し、今後も若手の育成に力を入れて、日本代表選手やプロサーファー、世界に通じる選手を育てていきたいです。

佐藤→ 今の一番の目標は、JPBA プロツアーで戦歴を残すことです。
また今後は、東北でもっとボディボードというスポーツを知ってもらえるよう、プロスクールや海に関わるイベントなどに積極的に取り組んでいきたいです。
そして何より、希望や夢を与えられるようなプロボディボーダーを目指したいです。

●最後に

*自分の店の宣伝とサーフィンに興味を抱いている方に一言(熊谷)

1年中、波乗り ONLY。

老若男女を問わず、これから始める方には、海の事・ルールやマナーなどの知識から、技術面のスキルアップ、そしてコンテストで勝つ為のジャッジクライテリアの解説など、お一人お一人に合わせたスクールを行っています。

キッズスクール卒業生の中には、全日本サーフィン選手権入賞選手の他、日本代表選手からプロへ転向した選手もあり、現在も第一線で活躍しています。

体験スクール・プロスクールは一年を通して随時開催しています。

ピンクのネオン管が目印の JAPSS SURF SHOP 1人でも気軽に立ち寄れるお店です。

同じ波は2度と来ないので、いつも違う波に乗れるのもサーフィンの魅力の1つです。

レベルごとに素晴らしいと思える瞬間がたくさんあるスポーツなので、是非、ご興味のある方は、一度、体験スクールを受けてみてください。

人生観が変わるかもしれません。

*所属しているお店の宣伝とボディボードに興味を抱いている方に一言(佐藤)

長年お世話になっている JAPSS SURF SHOP では全くの初心者からコンテストを目指す方まで、レベルに合わせたプロによるスクールが充実しています。

チーム員の年齢層も幅広く、個性あふれたあたたかい人達ばかりです。

海を楽しみたいという方々をみんなでお待ちしています。

ボディボードは波との一体感が最も感じられ体感スピードもサーフィン以上に感じられるスポーツです。

道具も低価格で揃えられる所も魅力です。

比較的、気軽に始められるマリンスポーツでもあり、是非一度、体験スクールを受けてみてほしいです。

取材後記

広報委員会編集部会において大地54号のコンテンツについて話し合っていた時、現場のプロに聞く題材について、委員長よりプロサーファーはどうだろうかとの意見が出され、昨年の流行語から言えば、「ジエ・ジエ・ジエ」と瞬間フリーズしたのを思い出します。まさか、地質調査の業界誌にプロサーファーのインタビュー記事を書ける事になるとは考えもよらなかったからです。しかし、こうやって出来上がりを見てみると地元出身のプロサーファーの意見を伺うことなど滅多にありませんし、是非サーフィンをやってみたいと思われる方には、非常に興味深い内容だと思っている次第です。

最後になりますが、取材に協力して頂いた、お二人にはこの紙面を借りて感謝申し上げますと共に、是非これからサーフィンをやってみたいと思われる方は、お二人とも非常に親切であり、また気軽に相談できる方なので、是非お店にお立ち寄りいただければよろしいかと思えます。

参考までに、お店の住所及び連絡先を併記します。

〒984-0013 仙台市若林区六丁目南町8-7三浦ビルB号 JAPSS SURF

TEL&FAX 022-288-3008 です!



熊谷素子プロ



佐藤亜矢子プロ

